

発行 環日本海学会事務局

京都市伏見区深草塚本町 67 龍谷大学経済学部サービスラーニングセンター内 〒612-8577

電話 075-645-2090 / FAX 075-645-2101 / 電子メール jsrs@mirec.org / URL http://www.mirec.org/jsrs/

## 今号のヘッドライン

- [1面] 会費額改訂の提案について・再掲
- [2面] 第13回学術研究大会への参加申し込みについて
- [3面] 学会名称問題に対する2008年度会員総会に向けた対応について(常任理事会提案)
- [4面] 総会・理事会・常任理事会議事  
第5期第6回常任理事会報告  
第5期第5回理事会報告
- [6面] 追悼・本多健吉名誉会員
- [7面] 会員情報
- [8面] 事務局からのおしらせ

## 会費額改訂の提案について・再掲

### (1) 経緯

「環日本海学会つうしん」第28号(2007年12月22日発行)でお知らせしたように、2007年10月1日に金沢星稜大会で開催した2007年度会員総会において、会費額改訂に関する動議が採択されました。採択内容は、

- 2008年度から会費の額を改訂する
- 改定額は、直近の常任理事会で、慎重に審議し、その結果を速やかに会員に告知し、2008年度から適用する。

以上を本総会で決議する。

#### 提案理由

一方で両監事から理事会総会において近い将来本学会財政は危機的状態に陥る旨指摘があった。他方、10周年記念事業として、事典も出版され、学会奨励賞も設けられ本大会では分科会も6分科会が持たれた。こうした学会の活動充実の動きを支えるために提案する。

というものです。

### (2) 会費額改訂に関する常任理事会提案

これに応じて、常任理事会では、第5期第4回(06年12月23日開催)、第5回(07年4月21日開催)において、慎重に検討を行いました。

常任理事会では、本学会の活動を発展させるための支出構造の抜本的な見直しを行うこともあわせて会費額の改訂(収入構造の変化)を行うべきであるとの見解に達しました。支出構造の見直しに伴って、強化されるべき学会の重点活動は以下のとおりであると考えます。

- 学術研究大会の充実と自主財源による運営の拡大をめざす  
現状、財政的に大会開催校の「持ち出し」にほとんど依存している状況を抜本的に改善
- ジャーナルの強化、発信強化(e-ジャーナル)

優秀論文賞の制定とあわせて、アワードを出す学会のジャーナルにふさわしい「環日本海研究」のよりいっそうの質的向上と発信力強化

- 優秀論文賞、学生奨励賞など、若手人材の育成の強化

大会への参加や学会誌への投稿を促進

- 「北東アジア事典」の改訂

当該地域研究における本学会の発信力と先進性の強化

- 会員拡張

安定した活動財源と当該地域研究を広げ深めるための「仲間」、ネットワークの拡張

こうした支出構造の見直しを伴う活動の充実を図るため、

2008年度会費より、会費額を以下のとおり改訂することを提案します。

会員種別	現行	改訂額
一般会員	7,000円	10,000円
院生会員	3,000円	5,000円
賛助会員	20,000円	20,000円
特別賛助会員	100,000円	100,000円

### (3) 会費額改訂手続

会費額は、学会則第7条に規定されており、その改訂は、会則変更手続に準じます(総会での議決が必要)。常任理事会では、本提案に対する会員のみなさまからのご意見をお伺いし、2008年度会員総会(07年12月の第13回学術研究大会時に開催予定)に諮った上で、2008年度会費から新しい会費額での会費徴収を行いたいと考えています。

### (4) 第13回学術研究大会受付時の取り扱い

第13回学術研究大会受付時には、会則変更を伴う会費額改訂が決定されていませんが、仮執行扱いとし、新会費を徴収し、その旨をご了承いただく署名を受付にてお世話になりたいと考えています。

## 第13回学術研究大会への参加申し込みについて

第13回学術研究大会の詳細につきましては、過日お送りした「第13回環日本海学会学術研究大会のおしらせ」をご参照ください。

### JTB九州大分支店からの交通と宿泊のご案内(あっせん)

「環日本海学会 第13回学術研究大会」の開催にあたりまして、ご出席されます皆様方の宿泊のお世話をJTB九州大分支店にてお取り扱いさせていただくことになりました。お申し込みに関しては下記、インターネットまたは、お電話・ファックスにてお取り扱いさせていただきますのでよろしく申し上げます。

インターネットでのお申し込みご希望のお客様は、下記JTB九州大分支店ホームページアドレスまでアクセスしてください。

Yahoo!検索で「おおい温泉銀座」を入力していただくと！大分支店ホームページに素早くアクセスできます。

JTB大分支店ホームページ(<http://www.jtb.co.jp/shop/oita/>)の画面右下の「環日本海学会 第13回学術研究大会」([http://www.jtb.co.jp/shop/CategoryDetail.asp?SCODE=j8967-0&MODE=OTHER7&MODE\\_NUMBER=59&CMD=TOPHP&EDIT\\_FLG=True](http://www.jtb.co.jp/shop/CategoryDetail.asp?SCODE=j8967-0&MODE=OTHER7&MODE_NUMBER=59&CMD=TOPHP&EDIT_FLG=True))からお申し込み・ご清算まで可能です。その他、バスツアーについてのご案内も掲載しておりますが、お申し込みについては、直接亀の井バスまでお問い合わせください。

お電話・FAXにてのお申し込みをご希望のお客様は、下記までお問い合わせください。

JTB九州 大分支店 旅行課 担当:伊東・淵・生野 TEL:097-533-0211 FAX:097-532-6570

〒870-0026 大分市金池町1-1-17 JTBビル1階 (営業時間)月～土曜日 10:00～18:00 日祝祭日:休業

但しホームページ特別商品のお申し込み並びにホームページでお申し込み頂いた分の変更・取り消しは承れませんのでご注意ください。

### 参加申し込みの方法(大会実行委員会からのおねがい)

#### 環日本海学会第13回学術研究大会出欠届

氏名		
所属		
住所		
電子メール		
緊急連絡先電話		
8日	午前中の理事会 (理事のみ)	出席・欠席
	国際シンポジウム	出席・欠席
	懇親会	出席(会費3,000円程度)・欠席
9日	午前中の分科会	出席・欠席
	昼食弁当	必要(別途1,000円程度)・不要
	午後の分科会	出席・欠席

大会実行委員会では、みなさまに有意義な大会を過ごしていただけるよう会場設備を整えるため、会員の皆様の参加状況を把握したいと考えています。つきましては、下記の方法で大会実行委員会までご連絡ください。締切は12月1日(土)必着です。

1. 出欠確認専用メールアドレスへの送信  
左表の内容を記載したメールを、下記出欠確認専用メールアドレス宛にお寄せください  
出欠確認専用メールアドレス  
jsrs2007\_application@mirec.org
2. FAX  
左表にご記入の上、下記学会事務局宛にお寄せください。  
学会事務局 075-645-2101
3. はがき  
本面をコピーしていただき、左表の外側にある破線に沿って切り取り、官製はがきにしっかりと貼り付けてご記入の上、学会事務局宛にお寄せください。(宛先記入を手間を省くため宛先用の「切り抜き」もせいぜいご利用ください。)  
612-8577 京都市伏見区深草塚本町 67 龍谷大学経済学部サービスラーニングセンター内  
環日本海学会事務局あて

612-8577

京都市伏見区深草塚本町 67

龍谷大学経済学部サービスラーニングセンター内

環日本海学会事務局あて

## 学会名称問題に対する2008年度会員総会に向けた対応について(常任理事会提案)

2007年10月28日(日)13:00から、早稲田大学西早稲田キャンパス(東京都新宿区)にて、開催した第5期第6回常任理事会が決定し、同日開催した第5期第5回理事会に提案されている「学会名称問題に対する2008年度会員総会に向けた対応について」(常任理事会提案)は、以下のとおりです。本提案は、現在、2007年12月9日にAPUで開催する2008年度会員総会に「理事会提案」のとりまとめに向けて、理事会において審議が進められています。

### [1] 経過

1994年11月 環日本海学会会則施行

2005年10月 第11回学術研究大会 全員分科会・会員総会

- 青山宏夫氏「“日本海”呼称問題について」報告を受けて討論
- 「会員アンケートを踏まえて、常任理事会・理事会は名称問題について早いうちに提案すること」(林会長、坂田副会長)

2005年11月 「学会名称に関する会員意向調査」(35/337)

2006年5月 「学会の今後のあり方および学会名称に関する会員意識調査」(26、最終59)

2007年4月 常任理事会「2008年度会員総会において、理事会提案として名称問題に関する節目の結論を諮ること」

### [2] 提案

- 「北東アジア学会」に改称する  
(英文名: “The Association for Northeast Asian Studies”)
- ただし、当分の間、「北東アジア学会(旧称:環日本海学会)」と併記する
- 学会誌名称「北東アジア研究」は存在するため、「北東アジア地域研究(Journal of Northeast Asian Studies)」とする

### [3] 提案理由

- 「会員アンケートを踏まえて名称問題について提案する」(2005年会員総会)との議に基づき、二度に亘る会員アンケートを実施した。結果は、回答数は多くない(委任型が多数と考えられる)ものの、第一回アンケートでは「(名称)変更したほうがよい」が「変更の必要はない」をやや上回り、続く第二回アンケートでは、(提案名称について)「環日本海学会」に賛同するものがトップながら、「北東アジア学会」に「東北アジア学会」を加えるとこれを上回るようになった。この二者は「北東か、東北か」という表現をめぐる点を除くと同一の見方であるとも言える。なお「北東アジア」に対して「東北アジア」の表現は「賛同できない」とする意見が相対的に多い。以上のアンケート結果から、「北東アジア学会」に名称変更することが妥当と判断される。
- 名称問題をつうじて、「学会のあり方そのもの」を議論する性格を強くもつことになった。とくに、本学会の設立時の歴史的環境と学会の意義、「環日本海」という海をキーワードにする研究交流のユニーク性、しかし同時に対象地域を狭く捉えたり、研究課題を限定しかねないこと、といった議論である。このような経過を踏まえて、本学会は、日本海が対象においても課題においてもコア的な位置にあることを改めて確認しつつ、「北東アジア学会」に名称変更を行うことにより、現実に進展しつつあ

る対象領域の広がりや繋がりを学会の研究活動において反映できるようにする。この地域をめぐる歴史的経過を踏まえつつも、未来創造の視点をもって、平和でサステナブルな国際社会を構築するために本学会は研究活動をつうじた貢献を行うべきである。したがって会則第2条でも「日本海」地域についても適切に表現することとする。

- 「環日本海」地域という対象設定によって Local to Local のアプローチを特徴的にしているという意見もあったが、「北東アジア学会」とすることによってこの視点を喪失することにはならない。国家、さらには国際機関などの役割もこうした地域間関係の展開を捉えるうえでも無視しえない点は確認しておきたい。
- 名称変更する場合、「北東アジア学会」とするか「東北アジア学会」とするかも意見の分かれる点である。漢字圏においてはこれまで東北と表記するのが一般的であった。しかし、日本においては北東と表記するケースが増加している。NIRA は最近、「北東アジアのグランドデザイン」と称する大規模な国際的共同研究を展開している。また本学会と交流のある「環日本海アカデミック・フォーラム」は「北東アジア・アカデミック・フォーラム」と改称している。なお、外務省は当該地域について、「アジア太平洋州局北東アジア課」と表記しているし、経済産業省も「通商政策局北東アジア課」としている。

### [4] 手続・今後の進め方

#### (1) 行動計画

2007年10月28日 理事会に対する「常任理事会提案」のとりまとめ

2007年10月28日 理事会への「常任理事会提案」の提起

2007年12月8日 会員総会に対する「理事会提案」のとりまとめ

2007年12月9日 会員総会への「理事会提案」の提起、名称変更の議決

#### (2) 名称変更に伴う学会則の改正条文

第1条 本会は環日本海学会(~~The Association for the Japan Sea Rim Studies~~)北東アジア学会(The Association for Northeast Asian Studies)と称する。

~~2. 日本海の各国における表記については各国語を尊重する。~~

第18条 ~~第1条の本会の名称については、今後本会において討議を重ねていくものとする。当面、新名称と旧名称を併記して使うことを妨げない。~~

(了)

## 総会・理事会・常任理事会議事

### 第 5 期第 6 回常任理事会報告

第 5 期第 6 回常任理事会が、2007 年 10 月 28 日(日)13:00 から、早稲田大学西早稲田キャンパス(東京都新宿区)にて、常任理事、名誉会員計 4 名が出席して開催された。議題は以下の通り。

#### [1] 学会名称問題について

名称問題に対する 2008 年度会員総会(2007 年 12 月 9 日 @APU)に向けた対応に関して、「常任理事会提案」の案が示され、了承された。

了承された「常任理事会提案」は、直近(同日)の理事会に提案するものとした。

#### おもな発言

- 現在の学会名称問題の議論は、「環日本海」を「北東アジア」ないし「東北アジア」に変更するという方向性がこの間の議論の大きな流れであると認識している。
- この議論は、「環日本海」という local to local な視点を捨てて、国家間の関係を研究しようという学会に「衣替え」しようとするものではなく、むしろ、学会則第 2 条「目的」に示されている本学会の「こころざし」を再確認しつつ、会員の研究関心の広がりをキャッチアップしようとするものだ。
- 「北東アジア」となっても local to local だ。
- アンケート調査結果を踏まえると、「北東アジア」のほうが抵抗感が小さいのではないかと。
- 「東北」か「北東」かという議論は際限がない。
- 会員と学界の探求領域の広がりや合致させるための名称変更だ。

#### [2] 第 13 回学術研究大会について

### 第 5 期第 5 回理事会報告

第 5 期第 6 回常任理事会が、2007 年 10 月 28 日(日)13:00 から、早稲田大学西早稲田キャンパス(東京都新宿区)にて、常任理事、理事、名誉会員計 7 名が出席して開催された。議題は以下の通り。

#### [1] 事務局消息

山田一隆事務局長から、2007 年 7 月から当日までの事務局の主な業務内容が報告された。

#### [2] 学会誌編集委員会から

今村弘子学会誌編集委員長から、『環日本海研究』第 13 号の編集経過について文書報告があった。

第 14 号からは、大会報告要旨の掲載をやめ、プログラムの

山田一隆事務局長から第 13 回学術研究大会の準備状況が、別紙 2 にしたがって説明があった。

資料作成後、第 1 分科会座長に孔義植会員(日本大学)、第 2 分科会座長に松野周治理事(立命館大学)、第 3 分科会座長に金光林会員(新潟産業大学)が決定したことの説明があった。

また、韓国東北亜経済学会からも今大会に 3 名が参加する。前日の歓迎宴への参加を常任理事には呼びかけることとした。

#### [3] 2008 年度事業計画について

山田一隆事務局長から 2007 年度事業報告については会計監査が終了していない旨の報告があり、12 月 9 日理事会で報告するとの説明があった。

山田一隆事務局長から 2008 年度事業計画について、別紙 3 にしたがって説明があった。特筆すべきは、第 6 期役員選挙の実施であり、予算案は、会費額改訂(値上げ)を前提とした編成となっている旨、説明があった。

#### [4] 今後の予定

このあと理事会(第 5 期第 5 回, 15:00-18:00)

こんどの理事会(第 5 期第 6 回)

とき 2007 年 12 月 8 日(土)10:00-12:00

ところ 立命館アジア太平洋大学(大分県別府市)

議題 第 13 回学術研究大会について / 名称問題 / 財政問題 / その他

みの掲載とすることが提案され、了承された。

代わりに、大会報告がエントリー方式を採っている現状に鑑み、その質的担保を図るために、各分科会座長が分科会報告や質疑応答の内容を取りまとめた文書を執筆し、ニューズレター「環日本海学会つうしん」に掲載することが提案され、了承された。

第 13 回学術研究大会(APU)から実施するべく、編集委員会と学会事務局で協議・準備を進めることとした。

#### おもな発言

- 大会報告をしたら、論文にまとめ投稿するというスタイルを作っていきたい。

- 大会報告要旨を学会誌に掲載するようになったのは、報告の質を担保するためでもあった。プログラムのみを学会誌に掲載するというのであれば、それに代わるものが要る。

### [3] 環日本海学会優秀論文賞について

山田一隆事務局長から、環日本海学会優秀論文集の審査状況について説明があった。

### [4] 会費額改定について

山田一隆事務局長から、会費額改定についての会員からの意見・問い合わせ状況(ゼロ)の報告があった。

通常、大会受付時に会費を納める方式を採っているため、第 13 回学術研究大会では、会費額改訂(会則第 7 条改定)を仮執行する理事会決定を行ない、受付時でその旨承諾の署名を会員から収集することとした。2008 年度会員総会で、会則の関係条文改定が否決された場合には、次年度会費の一部として充当することとした。変則的な大会受付となるため、ニューズレター「環日本海学会つうしん」第 31 号(2007 年 11 月発行)において、会員にそのようにする旨告知することとした。

### [5] 学会名称問題について

山田一隆事務局長から、同日の第 5 期第 6 回常任理事会で決定された、名称問題に対する 2008 年度会員総会(2007 年 12 月 9 日@APU)に向けた対応に関する「常任理事会提案」の説明があった。

今回の議論を踏まえ、また、欠席理事からの意見・問い合わせを集約し、次回理事会において、「理事会提案」を決定し、会員総会の議案とする。

#### おもな発言

- 現在の学会名称問題の議論は、「環日本海」を「北東アジア」ないし「東北アジア」に変更するという方向性がこの間の議論の大きな流れであると認識している。
- この議論は、「環日本海」という local to local な視点を捨てて、国家間の関係を研究しようという学会に「衣替え」しようとするものではなく、むしろ、学会則第 2 条「目的」に示されている本学会の「こころざし」を再確認しつつ、会員の研究関心の広がりをキャッチアップしようとするものだ。

- 「北東アジア」となっても local to local だ。
- アンケート調査結果を踏まえると、「北東アジア」のほうが抵抗感が小さいのではないか。
- 「東北」か「北東」かという議論は際限がない。
- 会員と学界の探求領域の広がり合致させるための名称変更だ。この 3-4 年の学会誌と大会報告の論文題目から、「環日本海」「北東アジア」等のタームの使用状況を調査した資料を次回理事会や総会では添付してはどうか。
- 日本海周辺の問題をやるという「志」を失うわけではない。むしろ、広げるという意義がある。

### [6] 第 13 回学術研究大会について

山田一隆事務局長から第 13 回学術研究大会の準備状況について説明があった。

#### おもな発言

- 大会参加申し込みのやり方がわかりにくい。
- 「おしらせ」すでに出してもらっているが、もう一度、参加申し込み方法の告知をすべきではないか。

### [7] 2008 年度事業計画について

山田一隆事務局長から 2007 年度事業報告については会計監査が終了していない旨の報告があり、12 月 9 日理事会で報告するとの説明があった。

山田一隆事務局長から 2008 年度事業計画について、別紙 3 にしたがって説明があった。特筆すべきは、第 6 期役員選挙の実施であり、予算案は、会費額改訂(値上げ)を前提とした編成となっている旨、説明があった。

### [8] その他

#### (1) 入会申請の承認、会員の退会に関する報告

山田一隆事務局長から、入会申請のあった者 5 名、退会申請のあった者 3 名、住所不明者 9 名の紹介があり、入会の申請につき承認された。

#### (2) 次回の予定

次回は理事会

とき 2007 年 12 月 8 日(土)10:00-12:00

ところ 立命館アジア太平洋大学(大分県別府市)

議題 第 13 回学術研究大会について / 名称問題 / 財政問題 / その他

## 追悼・本多健吉名誉会員

## 本多健吉・名誉会員のご逝去を悼む



提供：鹿児島国際大学

本学会の第3代会長(99年10月～2002年9月)をお務めになった本多健吉名誉会員が、去る10月22日、薬石の効なく食道癌のためお亡くなりになりました。享年73歳という早すぎるご逝去でした。

本多先生は、鳥取県ご出身で、神戸大学経済学部、大阪市立大学大学院とお進みになり、61年から

94年まで33年間大阪市立大学に勤務されたのち、94年から2004年まで10年間にわたって福井県立大学で教育と研究に携われてこられました。04年からは、鹿児島国際大学に移られ、研究科長の要職をお務めになっておられた矢先の悲報でございました。

本多先生は、日本では最も早くから開発経済論分野の研究に取り組み、この分野のまさに草分け的な存在でありました。とくに、A・G・フランク、I・ウオーラースティンら従属学派とも交友を結ばれ、彼らの理論的な問題点について貴重な議論を戦わせてこられました。先生は、これまで、

## 故本多健吉先生を偲ぶ会のご案内

去る10月22日午後11時30分に永眠された本多健吉先生(鹿児島国際大学大学院/元経済学研究科長、大阪市立大学・福井県立大学名誉教授)を偲ぶ会が下記のように行われます。

記

日時 2007年12月16日(日)

午後1時から2時まで 偲ぶ式(供花料3,000円)

午後2時から4時まで 偲ぶ宴(会費5,000円)

会場 ホテル・アウリーナ大阪(右図参照)

〒543-0031 大阪市天王寺区石ヶ辻町19-12

電話 06-6772-1441

近鉄上本町駅(徒歩3分)、地下鉄谷町9丁目(徒歩8分)、大阪空港-上本町リムジンバス(40分)。

呼びかけ人

鹿児島国際大学 経済学研究科長 衣川 恵

西南学院大学教授 小川雄平 (ほか略)

副会長 坂田幹男(福井県立大学)

4冊の単著、10冊を超える共編著、80編を越える論文を発表してこられました。これらの業績は「圧倒的」としか表現しようのないすばらしいものであると言えます。日本における発展途上国研究は、先生の業績抜きには語れないと言っても過言ではありません。

福井県立大学に移られてからは、「北東アジア研究会」を主宰されるなど、北東アジア・環日本海研究に強い関心を向けられ、この分野でも貴重な研究を残されました。私は、本多先生の弟子として、また同僚として、先生とは35年余りにわたる密度の濃いおつきあいをいただき、学問上はもちろん、研究者としての資質、酒の飲み方まで、多くのものを学ばせて頂きました。私事で恐縮ですが、本多先生との出逢いがなければ、今日の私もなかったであろうと言えるほど、本多先生には公私にわたってお世話になりました。

本多先生はまた、スキーが大変お上手で、ゲレンデでも私の師匠でありました。先生のスタイルは、まさに研究態度そのまま、丁寧で優雅なシュプールを描きながら滑降される姿が今でも目に焼き付いています。もう二度とご一緒できないのかと思うと悲しみがこみ上げてまいります。

末筆になりましたが、本多健吉先生のご冥福を心よりお祈り致します。



追伸

弔電・供花(料)をお届け下さる場合は、御芳名と御連絡先をお書き添え願います。

実行事務局(照会先): 金早雪 信州大学経済学部(〒390-8621, 直通 FAX 兼 0263-37-2323)

## 会員情報

### 会員著書近刊のお知らせ

本欄は、学会事務局に会員から寄せられた新刊情報について、書誌情報として提供するものです。

辻久子『シベリア・ランドブリッジ 日ロビジネスの大動脈』

【他薦】

単行本: 151 ページ / 出版社: 成山堂書店 / 出版年月: 2007 年 11 月 / ISBN13: 978-4425930913 / 2,520 円

### 新入会員 5 名

院生	金 玄	東洋大学大学院国際地域学研究科	推薦人: 金子彰、久留島守広
院生	沈 欽	東洋大学大学院国際地域学研究科	推薦人: 金子彰、久留島守広
院生	付 榕	東洋大学大学院国際地域学研究科	推薦人: 金子彰、久留島守広
一般	大西 富士夫	日本大学国際関係学部	推薦人: 千葉康弘、柑本英雄
一般	河原 典史	立命館大学文学部地理学教室	推薦人: 轟博志、山田一隆

2007 年 10 月 28 日 第 5 期第 5 回理事会承認

### 退会者 3 名

高橋 正立	中村 哲	松田 昭美
-------	------	-------

2007 年 10 月 28 日 第 5 期第 5 回理事会報告

### 住所不明者 13 名

学会事務局では、日常的に会員のみなさまの連絡先・所属等の変更・更新を受け付けており、その追跡にも注力しておりますが、残念ながら、現在、以下の会員の連絡先が学会事務局で把握できておりません。会員のみなさまの中で最新の連絡先をご存知でしたら、学会事務局までご連絡いただければ幸いです。

一般	坂山 高雄	島根大学法文学部
一般	佐々木 一郎	横浜市立大学国際文化学部
一般	島倉 敏夫	YKK株式会社黒部事業所
一般	武田 洋平	東海大学平和戦略国際研究所
一般	蔡 承完	財団法人環日本海経済研究所
一般	中村 治仁	長岡大学産業経営学部
一般	李 勁	
海外	鈴木 英司	中国国際関係学院
海外	Valentina Grishina	
院生	綱 泰徳	中国・吉林大学東北亜研究院研究員
院生	鄭 光敏	名古屋大学大学院経済学研究科
院生	鄭 鉉錫	
院生	Lamacheva Ioulia	新潟大学大学院現代社会文化研究科

## 事務局からのお知らせ

### 会費納付・会員拡張について

#### [1] 会員の会費納付状況・学会則第 6 条について

参考：環日本海学会会則・第 6 条「本会を退会しようとする者は、書面をもって退会を本会に通告すれば退会することができる。会費を 2 年間滞納した者は、理事会において承認の上、退会とみなす。」

現行では 4 年滞納（一般会員の場合、28,000 円以上）で、学会誌の送付を停止し、「つうしん」の発送のみとする暫定措置をとっていますが、2008 年度からの会費額改訂にあわせて、学会則第 6 条に沿って、上記該当者の一括退会処分を行うことにしています。本報同封の会費請求書をご確認の上、至急納付いただきますようお願いいたします。

#### [2] 会費納付のお願い

郵便振替口座 00990-3-117008

環日本海学会

2007 年度年会費	一般	7,000 円
	院生	3,000 円
	賛助	20,000 円
	特別賛助	100,000 円

### 学会の情報化について・再報

#### [1] 学会員メーリングリストの運用について

学会事務局では、会員のみなさまの情報交流の機動性を高めるべく、学会員の一斉同報メールシステムを構築しています。

環日本海学会メーリングリスト [jsrs\\_all@mirec.org](mailto:jsrs_all@mirec.org)

登録メールアドレスは、現在「会員名簿」に登載されているメールアドレスを基本としています。現在の登録者数は 170 で、全会員のおよそ半数です。メールアドレスに登載いただけない会員のみなさまには、これを機会にメールアドレスの登載をご検討いただければ幸いです。ご連絡は学会事務局までお願いいたします。

#### [2] 「環日本海学会つうしん」の電子配信について

つうしん本号に同封の会費納付のごあんないで金額（過年度未納分がある方は併せてご請求申し上げます）をお確かめの上、同封の郵便振替払込票をご利用ください。（払込手数料は会員負担）。

#### [2] 会員拡張の重要性

このところ会員数は、横ばいないし漸減の傾向にあり、学会組織として、本学会をとおした学究・交流活動を促進し、発展させていく観点から、また、学会経営の財政的安定化を図る観点から、新入会員の勧誘につき、会員のみなさまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

学会事務局では、会員のみなさまの積極的な新入会員獲得活動をサポートするため、学会のごあんないリーフレットを作成しています。本リーフレットは学会ホームページ (<http://www.mirec.org/jsrs/about.html>) からダウンロードできますので、ご活用いただければ幸いです。

学会事務局に電子メールアドレスをお知らせいただいている会員のみなさまには、これまで紙媒体として郵送していましたが「環日本海学会つうしん」の配信を、前号（第 29 号）から環日本海学会メーリングリスト [jsrs\\_all@mirec.org](mailto:jsrs_all@mirec.org) を活用した電子配信（pdf 形式）に切り替えさせていただくこととしました。

電子配信への切り替えによって、事務局の印刷・郵送経費および手間の軽減もさることながら、発行後すぐに配信するため、紙媒体を郵送するよりも迅速にお手元に届けることができます。

電子メールアドレスをご登録の会員の方で、従前同様、紙媒体の郵送をご希望される方は学会事務局までご連絡ください。